

## 東京国際空港（羽田空港）の新しい滑走路（D滑走路） ～ 埋立部の揚土工（路床まで）の施工概成 今後は、舗装工を残すのみ ～

### 記者発表資料

国土交通省は、我が国空港ネットワークの拠点空港として極めて重要な位置を占める東京国際空港（羽田空港）において、新たに4本目の滑走路となる『D滑走路建設工事』について、平成22年10月の滑走路の供用開始を目指し、24時間365日の昼夜連続施工による工事を進めています。

この度、平成22年2月24日（水）、護岸・埋立Ⅱ工区（東洋建設、清水建設、みらい建設）において、揚土工に使用する埋立材の最終揚陸が完了し、埋立部の揚土工（路床まで）の施工が概成しました。なお、揚陸完了後も引き続き陸上作業（埋立材料の敷き均し転圧等）が残るため、揚土工が完了するのは3月下旬頃となる予定です。

揚土工については、平成20年9月から施工が開始され、揚土船（リクレーマ船4隻等）により日当たり約5万m<sup>3</sup>を投入。揚陸完了までに要した期間は約1年6ヶ月。その間に投入した総ボリュームは約2,800万m<sup>3</sup>（注1）。過去に例を見ない大量急速施工を行ってきました。

これにより、埋立部は、施工規模の大きい工種として舗装工（注2）を残すのみとなり、本年10月の供用開始に向け最終工程の段階となりました。（注3）

（注1）護岸概成後（H20.9）の護岸内側に投入したボリューム（管中混合固化処理等含む）。また、当プロジェクトでこれまでに投入したボリュームは約5,300万m<sup>3</sup>。これは、東京ドームにして約43杯分に相当する規模。

（注2）埋立部においては、平成22年2月8日より舗装工下層路盤に着手済。

（注3）その他の工種としては、航空灯火・保安関連施設、排水施設等の施工が残る。

平成22年 3月9日（火）

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所

#### 同時発表記者クラブ

竹芝記者クラブ	横浜海事記者クラブ	神奈川建設記者会
都庁記者クラブ	千葉県政記者クラブ	東京航空記者会

#### 問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所

先任建設管理官 こばやし まさゆき 小林 雅幸・係長 はらだ つとむ きふね てつお みつやま けんたろう 原田 勉、貴船 哲央・満山 堅太郎

住所 東京都大田区羽田空港3-5-7 メンテナンスセンターアネックス 5階

電話 03-5756-6577

HP <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/>

D滑走路全体航空写真(平成22年 2月20日撮影)



埋立部状況①(平成22年2月19日撮影)



埋立部状況②(平成22年2月19日撮影)



埋立部(傾斜堤護岸)標準断面

